文集

詠一詠二

支那和訳物語巻第廿一

雑部十三

題

郡里
驛庭
棟窓
墻籬

村戸
市廛
門

[illegible]
[illegible]
武紀郡
主基備中[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

もゝせもとのこゝろのみつきそめしより
見しすいこの歌信濃
ふるのなるよしをきゝてよめる
百首哥中 伊勢
ふりぬるにわれもなりなんしら雪の
後京極摂政
題しらず
里
寛平の后宮の歌合 山ざと
わがやどの(かど)(の笠カ)
みちもなし山ざと雪はつもれども
(つもるとも)
とふ人ありてあはれとぞみる(笠カ)
ところ

昌泰元年亭子院歌合 秋ごと
女郎花(をみなへし)
秋風もすゞしく野ごとをみなへし
法性寺入道前太政大臣
さりともとこのもかのもとをのみ
文屋康秀
人やまつらむ里の秋風
建長七年百首哥中
いとゞしくひさしくなりぬまき山の
隠里同梅花
ゆきをのみ

[illegible]
長治二年 [illegible] 結申 [illegible] 合
[illegible]
又月 [illegible] 法隆寺 [illegible] 御
[illegible]
[illegible] 殿宮 [illegible] 大将
[illegible]
[illegible] 三位 [illegible]
[illegible]
[illegible] 入道二品 [illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

同　なるのさと　河内

永久三年十二月大神宮奉令投

いそのの里　書

汗人名

もろ人もそひきとにはとり

万四　石河宣成

くく　こ　ゆ

ゆく人をとゞめすきやうそ川

ゆくすゑの月　昔

おもふ事をそはくる月よあく

修頼朝臣

ゆく人をとゞめてそその里をすく

出雲守百首

ゆくくくのなく乃人へ　小侍従

摂津守百首　顕仲卿臣

ゆく人をとゞめけるかまつのいろ

元永大嘗会　池田宰　近江

ゆくさきもわひしくもれるたなひくの里は雪をや川　備中　両国中

海道宿次百首　池田

ゆくすゑさゝ川をわたりよりもけふの雪

一茶奉大嘗大臣家　常陸　藤原為頼朝臣

ゆくすゑも雪の下折ふしを

ゆくとしもよりかとともけり　後三条院御製

百首　二十帖鶴

ゆくとしも兼やさの月の雪

後九条内大臣

ゆくすゑもいつもかはらぬ雪の色に

百首　正二位　令子内親王　□

同

太宰大弐高遠
三河国名号の合
為忠朝臣
春かとも
永仁大嘗会
為定
お中納言俊光
太宰大弐高遠
三河国名号の合
為忠朝臣
為定
お中納言俊光

布引次にまのさとをみ
千五百番三十合
隆信朝臣
西安大嘗会
大弐宗隆朝臣
大納言俊光
寛治五年八月宮
友季綱

秋ふかきもとやまさとの里
山三十八番左衛門督
に三十番左衛門督
常陸
光俊朝臣

同

ここのさとにさそらいそさそんかるそーこのさけるひ
まて

同　ももゆめさと山城

安法ら師
あるちにそこもゆめさとにに(元)(とうをかけさと)なけて称光帝
時まあ民のいも屋をそけ大意宣後教
の意
家集三帝
あるきにときの雪上すむ
物語

民訪ける家
殺人不知

家集　謡経法華部

千五百番寺会

後鳥羽院御製

雲のうへ羽風なほ（つたさ）
太宰帥（帥仲）にて下りける時、海の乃さと（勘）

りそのうみなとにそてきをそしてもまつ
天仁大童舎（まつ）

天仁ユキ匡房スキ已系
康治ニ顕輔スキ敦光

千載

忘らるゝ（ゝ）
身をは（ゝ）
なけ（ゝ）
つゝ
ふる（ゝ）
なかめ（ゝ）
ふるに（ゝ）
ながめ（ゝ）
せしまに（ゝ）

旅宿（ゝ）
にて（ゝ）
月を（ゝ）
見て（ゝ）

太宰大弐高遠（ゝ）

左京大夫顕輔（ゝ）

家（ゝ）
集（ゝ）
に（ゝ）

題しらず（ゝ）

よみ人しらず（ゝ）

雁（ゝ）
鳴（ゝ）
比（ゝ）

秋の夜の月の光のあまねきは
雲ゐにすめる心なるらん

よみ人しらず（ゝ）

ものおもふ秋の夕べをみほとけの
誓（ゝ）
永き（ゝ）
ねぶ（ゝ）
国（ゝ）
土（ゝ）
にぞ（ゝ）
思ふ（ゝ）
事（ゝ）
なき（ゝ）
人（ゝ）

乃国法師（ゝ）

みそのうちをこゝろにかけてたのめつゝ
（をくらの（吉））
宝（ゝ）
なほ（ゝ）
玉（ゝ）
恵（ゝ）
（ゝ）
（ゝ）

ムふ不分明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄合

なつかしみ
永久に
枝葉

勝雲閣 大和久作 濃

鉄人を
仲實作
有忠作
おもひ定め

弁財天
負恵三年
家集
民記
修成
紙宣書
同

丹波福郎吉美
流布本先
家集
月をよみ
雨ふりて
くらやみの
吉田
近江

[illegible]
[illegible]
[illegible]

永久寺年百首題詠 暑

こひつつわすれもぞする夕すゝみ
　　後朱雀院

題しらす　こひのさと　ゆかた

秋かぜのそよふくころもうすからし
　　源人兼

寛治二年百首　たなばたの　さと　暑

とゝめんと秋をさのむものさとに
　　従二位家基

いの井もみさとにいもをとゝめけり
　　長治元年五月内裏

ゆかたかな

ゆふすゝみきてとまやとふさまもよし
　　友盛

長治元年五月内裏歌合　夕すゝみ

ゆふすゝみまつ来ぬ人のおとせねは
　　後冷泉院

大嘗会御屏風　遠江

夏山のしげみにまよふ郭公
　　従二位家隆

織女よしばしくもらせ天の川
　　家集

あさぼらきあけぬとつけこせ郭公
　　大和

たゞたのめつゝあかすよの郭公
　　前大納言資実

草中納言資実

郭公なくやさ月のあやめ草
　　源時房

主基悠紀二所歌合　後三條院御製

郭公ふるさと人やまつらんと
　　従二位家隆

おもふこゝろのあるにつけても
　　家集

郭公なくやさ月のあやめ草
　　宗尊親王

たうほとのむねへのさとに宮ゐして
永久二年百首歌 鶏 けさのさと 竹間戀
四つたけのさとよりつねてまいりたるに
三河國名取の会竹屋の里
みつりをなをそうしてよいくよのうつる
月 有通朝臣
すとりもれおのたくひもやまのよの竹屋
たのめさす 信法
むのとのまもあけてまつよにあふさかの
長治二年百首 たまかはのさとの城或庄集

お大納言忠長
建保三年名所百首
てにとりやはすきもみぬひのうちに
月 前中納言定家
むかはさすてにとりなれしおもかけの
月 従二位家隆
もいはさすてにとりなれしおもかけの
月 鈴木朝臣
家集冬

△罪之審問

神奈川宿まの山よ宝かく(ライ)
ほくの里松く(助)青
もの代そてそれさとすっ松
主座の(ライ)(母ライ)のさとの(入行江)
くりなよれありまくそ
この国(ライ)のさと
(流刑牢先)
乃ころ(ライ)
五
家の松ひるくそ
(同ライ)
ちれさと金長大和
(牢)
つ(ライ)
(牢獄之事)(茅ヶ岡)
家集

(同ライ)
(牢来)(牢屋)
この心
同
(ライ)
(ライ)
(ライ)

[illegible]
丹波村雲の里
[illegible]
[illegible]
七治之巳五月陳庸
霞陽山家
[illegible]
[illegible]
[illegible]
題不[illegible]
[illegible]
[illegible]

三百匁（ケイ）のさうれう（ハ脱）（書脱）中務之（経会）
来ますくの風さしきものさうの里に来る
候三百匁 ものの里（後）冥利つきて丹
まいらせ候 ものの里にすみそめて（者）たのもしき
家業おこたりなく（ヲ）実方執行
用ふるみやすんうめのとにおそ（ハ）萩原の
百匁可（ハ）おくのさとみち（ハ）殺富つきて捕
之（ハ）おくなとへいうすき（ハ）ものゝ朝よ
候三百匁 ものゝ（ハ）ものゝ（ハ）
兄ひさせ（ハ）水（ヲ）のものゝよう（ハ）保師光
用
ものゝ（ハ）ものゝ（ハ）ものゝ（ハ）小林

家集 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

利立三　立帖題　やまのさと　三句

わりさらやさきのさとしも

保安二年九月廿日　少下おうらの山月

山をいでてよりくもるもの

月ゆへをまつもわれもの

心をも

分らもひらひくやけきかの

みこの年人家　山居山家

冬のくれいそしたきのこと

沖葉言寺　山寺山家

時雨のそらをきくしもの

推宗幼政

堀の木枯

心田のさとにはるへくもん

同

保延二年九月廿日　少下おうらの山月

深雅光

清守周基

家葉名月寺　よみけるの中

六条左宣旨

寒空の中　八月さと嵐

月よりてすむ心田のさとやまひ

宗禅法師

天文年中　修紀辰日退出　音声

九条大まろ補

家集　巻九物語

巻主輔親

月なきそのさとなをもとめけり

能因法師

もろともにあはれと思へ山桜　秋く

山王の鴨をかう仕掛へ下けるよやき
てのさともけの涙なすくなかりよ
えきもきき仕掛の海のたきのそすの杜家
かのくわるまとくるをこをもかかを
もくいうひもりて絵まうけるこくるをよ
めるて

慷 題不知 まき山の里 遊仙窟

あまのまきまきまきのさと山坂

慷 杜 題不知 鉄人之句

みくれなやみとめんまきのさとにもつく人をあるよ

題不知 鉄人之句

杜 慷 春夜のまをもくるまきのさとにもをもせかをある心らそ
すまき

河

冬ごもりのさて丹波

河

寒きをねひのあるとせかともいくあるさと

河

布ぬすまきさと山坂

河

河まもりさて書

春秋をおくたまきのさと

祝之句

もろもひきたちよをもつきりつもきの杜家のさと

遊久五年九月廿日の名寄帳に

山坂

お牛納言定家

寛治二年百首

民部卿為家

台用紙之内の里藤原季綱

河

河

河

二条太皇太后宮肥後

お牛納言定家

民部卿為家

なまぬるく流れ行くものさへなし
家勝つ天王院右近将監
一来ともなしさとせども
同
庵の松よ待つめの松と
同
かくふくみ風をさむみ
家集
我人とこころをそらにたのめつつ
秋の中
あきにはあまてみつ
相模
我をのみ思ふ心の深くとも
智経法師
いもへよいもとみるものさへ
大弐三位家人之
床住居之愛之
大弐実光通光
家集
帝王すまれぬの夏よ
同 おこもれさせ給ふ 播磨守伊房
寄門(古)
玉つけおく人のさとをのまもりかな
戒秀法師
同
時のそそぎもしられぬきりぎり
鴨長明
山の伊勢をの九月二夜の里に
ある人のもとにさらにはらぬ板を一枚たまへ
れば
同
山の同じ二夜の月をともにみて
ほんにひとつの乃十をかぞへて
同
の十種供養とて人人あつまりてゐ

千五百番之合

寛和二年内裏歌合

寛治二年八月十五夜

千五百番之合

後宮扇合

九条内大臣

相模国大住郡

山もとのさと　柏野　山城

山川

山もとの春のうぐひす　なくなへに

　とけゆくままの　谷川の水

　　藤原為家朝臣

夕されば　野辺の秋風　身にしみて

　うづらなくなり　深草の里

　　従二位家隆卿

かつきえて　うすくなりゆく　峯の雲

　あらはれそむる　よもの山の端

　　前大納言為家

しもさえて　とぎれとぎれに　鳴く千鳥

　なみうちぎわの　月ぞすごき

　　従二位家隆卿

三河国宝飯郡

ふきもこぬ　夜のさえわたる　秋の月

　雲ものこらず　澄める空かな

　　中務卿宗尊親王

いまよりの　ながめもちそふ　春の夜の

　夢路名残を　三川風かな

　　平兼盛

夜をかさね　みやまもくもる　ほどなくに

　雪もあらしも　春のさそひて

　　意尊法師

春ふかき　夜のひとへより　うすくなる

　雲のさそふか　花の香

重ねても　五首二首の　合点かな

　後二位教授

十題百首 陸奥

[illegible]

[illegible]

元明天皇御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あの家は売れたそうだ
あの家
売る
あの家のことのつり合よう
三川村
売ること
ものをきいてすぐ
閉イ
もとさげてかきの半蔵
懐
日ごとあそのことを
夜の内のはやるに
題不
あそのことを
張人
民訴
家集
おとりやめ
麻の袴
相模
おさとおまの
但馬
那須郡
家集大葬
青柳村
永仁大葬令
葬中納言修光

張人
林
おさとおまの
但馬
那須郡
相模
家集大葬令
青柳村
永仁大葬令
葬中納言修光

家集 秋 あきはぎをよめる

ながめやるをのへのしかもかなしきに
又ふきそふる秋のはつかぜ 平忠盛朝臣
文永二年十月 おもひのさと 陸奥
ゆくすゑもかくやうきねのさとならん
あさましや 男重立

家集 桐井のさと 山城或抄作

西行上人

法印定円

ながめやるをのへのしかもかなしきに
又ふきそふる秋のはつかぜ 平忠盛朝臣
文永二年十月 おもひのさと 陸奥
ゆくすゑもかくやうきねのさとならん
あさましや 男重立

家集 桐井のさと 山城或抄作

西行上人

法印定円

あきはぎをよめる

ながめやるをのへのしかもかなしきに
又ふきそふる秋のはつかぜ 平忠盛朝臣
文永二年十月 おもひのさと 陸奥
ゆくすゑもかくやうきねのさとならん
あさましや 男重立

家集 桐井のさと 山城或抄作

西行上人

法印定円

月

雪やなきをそ拂ふ人の跡

時鳥今宵きゝそと眼前の

なきおとろきをしのかとき

古曽志

かゝれきぬ君のさとに年をへ

唐衣きみのさとよも

きくの海

神奈月

題しらす

三位家衛

後頼朝臣

権僧正公朝

銀金吾大臣

民部卿為家

狭人もの

俳徊

後二位幼もの

妹の家

永久百首春日参

源忠昌

安嘉門院

詠きゝそ

うま水の江（井）
家集　このことは中褒
春すぎぬのうさてもかきつ
衣裏に隠れる。みそうさと　相模
かこころをみるにあまりもれ侍
りぬ秋のことて　赤染衛門
下人
あきのいまはいまはとをさへあまりいまはとをさへ
建保元年内裏十首　大和又武蔵
すみすてし時雨を袖にもれ
家集
山ふかみたのむ方にもれ
建仁二年三首　源頼朝
源氏
ふるさとの春の夜の夢の
題もしらず　このことは三首　摂政
遠江十首　三首　合山家　摂政　橋
引こもりさて久しくの
源為朝　下野
引こもりさて久しくの
題もしらず　このことは三首　摂政
建仁二年三首　源頼朝
源氏
ふるさとの春の夜の夢の
遠村花
みのことは花　善のさとりいそのかみ
後九条内大臣家会　林院里
右明の月乃　このことは結奥

遠江十首　三首　合山家　摂政　橋
引こもりさて久しくの
源為朝　下野
引こもりさて久しくの
題もしらず　このことは三首　摂政
建仁二年三首　源頼朝
源氏
ふるさとの春の夜の夢の
遠村花
みのことは花　善のさとりいそのかみ
後九条内大臣家会　林院里
右明の月乃　このことは結奥

八条院三条
続後拾遺
寶治二年百首
いそのかみふるきみやこのさくらにもあかぬいろかは
あるかな
春詠
もろともにながめしものをおもひいでよ
ひとりみやこの春のあけぼの
家集
八条院三条
寶治二年百首
いそのかみふるきみやこのさくらにもあかぬいろかは
あるかな
春詠
もろともにながめしものをおもひいでよ
ひとりみやこの春のあけぼの
家集
八条院三条
寶治二年百首
いそのかみふるきみやこのさくらにもあかぬいろかは
あるかな
春詠
もろともにながめしものをおもひいでよ
ひとりみやこの春のあけぼの
家集

[illegal illegible illegible illegible

題不知　作者名

村

永保元年大嘗会悠紀方
安大嘗会　会村
悠紀方　国
大嘗会悠紀

万代

〇滋賀郡
錦部

〇近江国志賀
神田神社
丹波与謝郡神田

玉祖久

〇吉野郡
神社

〇丹波国桑田郡

〇栗本郡高野神社

ちきたまはゝ久保ゝ村の云々
妄大嘗会ゝきの
ゝ錦部巡行

ゝくゝ木ゝゝをゝ
永保元年大嘗会主基方小忌
ゝゝゝ

ゝゝゝの村ゝゝ
永仁大嘗会ゝ

ゝすくゝくゝ
ゝゝゝ

ゝゝゝ

ゝゝゝ

ゝゝゝ

悠紀方ゝ庭ゝ吉野村人家風俗ゝ

ゝゝゝ

ゝゝゝ

ゝゝ

後

前

後

前

元弘の比、永保元年大嘗会を奉行の村
[illegible]さうの村 冊 殿
[illegible]角 [illegible]ますべきにより、
[illegible]角 [illegible]安嘗会 きの [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

五

河上のゆつのもりおすみそもそもそれ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

題不知 いつのよ 湯坐盤一 [illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[

市ひめのうえおいうきおいうきをもつ
十題百首 三条の帝 大和
大和物語 百首寺市時る
きそうんさすそうけいなと
六百番寺合寺商人憲
うそやうにこ物の市
山のいた方中こうの判者俊成
こおうにこ物の市
やうは絵をとそその市
ゆうきおあすとそ

五二
長寺 かうの市大和
やまきおいてうそうのうち
井の心おくいうれ
文永四年七月日 市商容 古元
多門市 大和
志津子人うううれ市
沖集十首百寺市憲
後鳥羽院御製
順徳院沖製
建保二年名所百首
まうえおれうれ民のうの
円

いそぐにやもとれなん

同

ふる市やうつまもをはて
はろこ
同三位の家後の市うつまのまも
家集
後拾遺
ともうりといろこ

同

時雨ふる市のうつもるくさけも
地摩
源三位頼政家ん

君我ものもるまのうつもをつくも
家務空天皇后名仍御傍

如覚法師

秋くれもる後のいち
題不知
ねやこすこれやさるもれ市
同イ
おの市
後撰
かきつまへ

驛

もまや
立三
おりまもれもまやくと
にたのそく
こりにそくもまやく

同イ

正三位知家ん

ふる市やうつまもをはて人る
春原光
後拾遺
ふる市やうつまもをはて人の
同三位の家後の市うつまのまも
ともうりといろこ
時雨ふる市のうつもるくさけも
地摩
君我ものもるまのうつもをつくも
家務空天皇后名仍御傍

如覚法師
あの
秋くれもる後のいち
題不知
ねやこすこれやさるもれ市
同イ
おの市
後撰
かきつまへ

驛

もまや
立三
おりまもれもまやくと
にたのそく
こりにそくもまやく

同イ

十顧自己

百首の　あまのもしほや　憶ノ
松風くらし　夜のふけもまゝ
六帖題　せきもるも　何待
みちもせきのもまやの
是程もおそしと　眠脱カ
あ大納言　なり
松風ことゝみそ
遺人不知
有資俊卿
正三位
時鳥きゝもこゝろと　鳴
ものから
ひろくそひろもれ

庭

家集建長元年毎月一首中
民部卿為家
秋のよもまさきのかづらくれそめて
月五を毎日一首中
せきの戸の　刊
せきの戸の　刊
百首歌の
慈鎮和尚
もゝの　同
すゝ　同
庭の松　旨遊
六帖も

梅

建保三年名所百首

春ごとにひとめとわそに匂ふ梅
香をしたふ人の戸ぢめや

正三位忠定卿

文永九年毎月一首和歌

ゆふなぎのそらにもなきか春雨の
ふるとはそなき軒の梅が香

民部卿為家卿

床

久安百首

山ぢのすきれとこれをそれとだに
いはでぞ通ふ床の上露

従二位俊成卿

万代集

けふそへむしでのたをさとこれひとり
猶ゐの床の秋の夜の月

家集

家集松三年

草むしろ床さへあれて久しくも
ふるきまくらの大納言通具卿

六帖題

すみぞめの袖をつゆあれ老の
床かわくまもなき涙かな

同

あさぢふのおのへの松にふく風の
よよをへだてぬ床のした露

信実朝臣

後二條院御時

棟

家集

おもてもふせもりもあるろ　後頼朝臣

おもてもふせもりもあるろ　心里落葉

おもてもふせもりもあるろ　円

寇

題不知

五十二

ふたりこし月のうちに入くれば

養老保忠人生減古文

ふたりこし月のうちに入くれば　績人不知

ふたりこし月のうちに入くれば　太宰大貳高遠

かくら前おけてもれぬ屋もあるき　家後空天雲居峰方

こりせしよりおもきものひろ　十題百首　後宮歌合

月きよみこもれるよりの寝えもいはれぬ　百首哥合

月さえてすめるさやけき秋の夜は　建長八年百首哥合

月のよれをそめにそめてやもろこのもの　家集

家集
をといひてやまにたて書
建仁元年 老若五十首奇合
寄道祝
西行上人
若みどりかしみのまつといはふ
みやこのみこれ住千代
秋ふかきやましのそほつ
六百番歌合
夜
夜きてうき事もなきやまの
大蔵卿
たえまなきこそいてやまの
雪
はるかきくこそもりのしたもみち
寄鳥述懐
後三位俊重
夜部千首 北行 寄月松 帝如深秋
慈鎮和尚

さよふけてほとをたゝくあらしの
戸
六帖題
新六二
いつにせん時よしくとのいて
寛元元年 三百 秋戸
同
わせこうとそのまゝにまさて
小雪月
同
あるしなき夏の戸いてゝ
行尽ひさし
人も
題不知
あけもせぬ
万十二
同 秋夜述懐
光明寺入道摂政

[illegible]
家集
おおさの山さくら戸
みもろより
千て花哥
おひまの山さくら戸
千五百番哥合
校入の九戸
西園寺入道前太政大
校入の九戸
業平
校二位家隆
校二位家隆

[illegible]
[illegible]
[illegible]

同中にまと
おひそのはなのたちさけ中にまとをりつまおけはなをと
同
川ゆつこへろ(左)正三位知家ん
ちかひさへそもろもろやりこのさてるつのそ
寿イ
ことひさへそけとそ
隆祐朝臣
秋ふ
押あけてまくにはあろ月をろれ
三首六十首中
ゆせこういものすへ
長谷内大臣
かさと
よをこめてれいうつりトつせこう花のさをもやさてま
読人しらす
おくしのまきれいとなトつくさてトつしうなりまうてる
二三 北久夜廿絵真木 乃伊勢度半
世めつまとをるしなをれおきてすくてゆよけろ
おほ大納言公任ん
このこめて
ほり人やまの月
なりけりをきてやふ杉妻
ひとりのこあり川のやまのそよ人まてまつ
ろろとのそて
隆中納言定頼母
詠もくるらそいてくきろとのみとひまも
平時ま
ひくすいて
とよ風のかえ乃心ゆ(左)
八幡若宮立着ん
二条太政大臣家
すきもてひと、あるきいその戸よいまも杜風遊そふ

門

十題百首

あきの夜のなさまろかれもの
述懐の中　(楽)
かきあつめくさのこさへよもいらく

六帖題

ちきり
ちぎりおくなこしこすもうくく

同

かくて入ぬ秋を楽の同

同

世よもあらし月よ人もいそらよ市をなさ

同　かとそら

前中納言定家

民部卿家

光俊朝臣

三位知家

信実朝臣　後普請

ものつくるそらのとりうかとそたてる橋さ

同

おもそてあやしれもあや逢なさうつさすうり

表紙同大臣

もろのそ

まろのもろのそらやきよまのそすみそうら

同

門

月そすてのあをそけて

文治六年女御入内屏風和歌

皇太后宮大夫俊成

まろのそよれのいて月

正治二年百首

述懐の柳のそのまろさをなせて

同

三条入道左大臣

いそまの浦かさしけのさと（磯馴）

同

おもかけの（面影）ふかくやとりし（宿）ふるさとの（古郷）
そのよもすがら（夜）（山家）
ふぢなみとさそていすまゐ（藤波）（誘）（居）
ふかきたのしみ（深）（楽）

家五十首 従二位藤原家隆卿

ふるさとは雪をへだてにおもひこし
すみうかりつる（住憂）
山ぢかな（山近）
ももしきの（百敷）
ふるきのきばの（軒端）
ゆふけぶり（夕煙）

家五十首 従二位藤原為家卿

ふるさとの（古郷）
ゆきのあしたの（雪）
ゆふけぶり（夕煙）
ももしきの（百敷）
のきばにかすむ（軒端）
はるのやまかぜ（春山風）

家五十首 従二位藤原家隆卿

ふるさとは（古郷）
ゆきのあしたの（雪）
ゆふけぶり（夕煙）
ももしきの（百敷）
のきばにかすむ（軒端）
はるのやまかぜ（春山風）

家五十首 従二位藤原為家卿

ふるさとは

永久三年百首

[illegible]

言書寄合

[illegible]

家集捶物

[illegible]

六帖題

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石清水三箇寺会
かきつ(り)もとこれは(松の名所イ)
おほ(ん)ぬさ(二見)
もりのあめのまもり
秋法の中(ものそうき)
(京イ)
ほきもり(の)もりさとみなと
まもや(へ)元のもとうき
もろさりてかつ(ぬ)さに(ま)
永久(ま)(ま)(ま)
和歌のさけるさうれ(ん)
(永元ま)(ま)(ま)(ま)(ま)
正三位知家(ん)

松島羽(ま)
(ま)
西行上人
(せ)
(ま)
(ま)
(ま)
(ま)
(ま)
仲実(ま)
(ま)
(ま)
(ま)
(ま)
(ま)
(宮)
(ま)
(ま)

(ま)
(ま)
(ま)
(ま)
(ま)
(ま)

同
文永二年七月廿四日
建長三年十月廿三日
民部左衛門尉家
同
文永二年七月廿四日
建長三年十月廿三日
民部左衛門尉家
同
永仁二年七月廿日
讀人不知
同
権大納言實家

（寛永三年内裏炎上ニ付再建ノ分カ）

（陸奥太守）

（経行家ヨリ）

（後陽成院）

（勅色時）

（和泉守）

（加）

（有家）

（有家）

（太宰大貳重家ニ）

（友房）

（有家）

（重家ニ）

（有家）

（重家ニ）

（有家）

（重家ニ

寛喜三年女御入内屏風

春のおもはゝきれ折の枝せの
西園寺入道前太政大臣

信実朝臣

春ふかみまつきれ間よりこゑ
あるやれとをきゝわたるほと
ゝきす

恵光法師

心さとにはをれぬきくの
花

同

くもゐはるきれ間よりもれ
出る

月

山のいほりまつとやかれ
なん

つめとりてをるにまかせて
やをそ

同

文永三年内裏仙洞歌合

花中納言為氏卿

あまそゝく袖もとをせる
春雨に

六帖題

君をけふ一夜二来ませ
三百六十旬あり

衣笠内大臣

うこくもきれ雁なくなり
百旬のうきのまき

好忠

秋ちかきまきの
秋ちかきのまきの
建長六年百首歌合

前大僧正慈源

春雨のふるきにこゝろ
六帖題 雁

従三位行家卿

新三

我ふるさとにはまつくらいらくのおもちをかくまて

正三位知家

公百十五
長一

和漢誹諧抄　卷第廿二

雜部十四

題

御調　硯　酒　筆　藥　太刀

鞭　弓　矢　鞘　笛　金

騰（ハヤ）行　杖　琴　文刀　砥

笠　鐘　寧兼婆　寶　紋　裝（萌黄）

玉　鏡　枕　髢（ヒタイカミ）

筵　簾　鬢（ビン）

答（カケ）箐（ヒキ）　梯（カケハシ）

志折　火取　梳頭（カミスキ）

標（ヒメ）　梳（カミスキ）麻

捕（トラヘ）　鞘（サヤ）　捌（サバキ）　刀

六帖題

整道 ゆくすゑのまつのみちなれ
寛喜元年女御入内御屏風

秋田よりつきをそめてもいくそあまりなんたつ
冷泉院御時大嘗會悠紀方辺江風御屏風
安和元年大嘗會悠紀方辺江風御屏風 源保光朝臣
同

風ふけはなみのしらゆふかけてこそうきもしらるる
風ふけはなみのしらゆふかけてこそうきもしらるる
寛和元年大嘗會悠紀方辺江風御屏風 源重之
元輔

ふきまよふこすゑのつゆもこらねはやしたもとおる
ふきまよふこすゑのつゆもこらねはやしたもとおる
大嘗會悠紀方辺江風御屏風 民部卿為家

東路やひきわたしたるきりのまをいとはやくとく
同

ふるさとやもとあらのこまいたつらんいまもみよしの
ふるさとやもとあらのこまいたつらんいまもみよしの
同

ふるさとのしらゆきにこほのひつめもそそをしき
ふるさとのしらゆきにこほのひつめもそそをしき
永久元年百首歌 前大納言忠通

おもふなといさすこほのあさちはらしもをきわ
神祇伯顕仲

同　長寿

なまえのえいきりめす
こつきの毎も　ふりはら

酒

大幸神大伴卿讃酒の歌十三首

中納言家持

仲文朝臣

なくのひとこのこてひき
同

鬼のさやはらけくねさも
二条　大后　奉る

六帖巻

こはのまりこりきそをろくに
支俊朝臣

こはのまりこりきそをろくに
同　長寿

なまえのえいきりめす
こつきの毎も　ふりはら

酒

大幸神大伴卿讃酒の歌十三首

中納言家持

さけのえとひてもこひてのみ
大納言旅人

同

よはひはなもえともさけの
同

おく浮きみそこえとの一坏
同

なくの人なせはきひの
同

おちさけをこのそりのそ
丹波大女娘子

題さそ

このもちさけのこのそりの心
長屋王

人丸

おもさけのこゝろの（古）

十分一盃賜り人

あくまでそさけまそさしきよ（古）人体はてあて

菅贈宰相（十二）地民収穫（五位）遠き節

田畝有年万國娯（古）お中納言定家（卿）

をき衣をうきををくくさうきのめくまもくは来（古）そうの

久安百首

竹の葉よ降くさ雪をれ

九月九日（朝）を

年のそにうくきくをかくさ（古）

家集（こと）

あさ井て（おき）きしめをよさけ（古）

千里

人々（古）

まもまも（古）

まもまも（古）

まもまも

薬師（別版）
思故卿哥
寺
五
なもはるかにまもしなはこ
題不知
（ワ）
ワさいくたちもまもとめを
家集前
七月のきくもそのくさはな
久安百首
ゆ
なのくぬもにうつせまも
住吉社哥百
もろあるきりはのうらは
千五百番哥合
寿延法師

讀人不知
（ワ）
ゆまあんみを
指中納言長方
ゆ
後二位家隆
ゆ
浦は

（別版）
なつのくへよくとりもとめ人
由来生老死三病長相随隆動無生忠
久安三年百首
ゆ
舟のうちにきよのきつをきてやもる菜の名をたに
人間無常治
（文）
第百首
民部卿家
ゆ
第まきて佛のもとき
六道生死物思心を
花山院御製
もとりのさえをのまあ
有久
久安百首金剛夜文
花園左大臣家
ゆ
いつもゆまかをとりあ

文

家集不見文應
[illegible]
久永六年[illegible]

[illegible]
六帖題
[illegible]
[illegible]
[illegible]
久安百首

修理亮胡乍
[illegible]
[illegible]
後法成院御製
[illegible]
中務
[illegible]
[illegible]
[illegible]
後京極摂政
[illegible]
[illegible]
お大納言後季

あさかやま
六帖題
いくよ[illegible]
百首歌
[illegible]
[illegible]
[illegible]

同
そのこれまでのむつまじ
度々の恵を
むとひおさうしてくらしひ
家守 古志
ものこひいてやりとりまめ
立帳むれ
なまてらとれをまつ
家集述懐百首 前民部雅有
いつもはてろれをもまあり
立百番 合初恵 侍僧正云朝
法橋顕昭 清輔朝臣

にきまにきそくこそのそを思つ
山寺右方中たなひ
むるまてこうあをたなひ
独同きうきうれ
はこ仮やくそ

硯
家集 守 初恵
ものそれのこうしてあひ
洞院摂政家百首 氷
家長朝臣
池まむるのあとへ

（白氏文集六 感情勇寺 詩ナリ）

正治二年百首（御点イ）

いさきよくそちすのみこ（の）

（行をこゝに入ル）

秋夕

家集ニさのみそ

水堂入あきのゆふへ

同日暗ニ乙小字書イ

秋風法師

ふくまゝのあとなきすゝきかな

（新古今ニ出）

秋

思ひくまのあとなきすゝきかな（中新古）

（原ノマヽ）

秋宣旨

山ちさまのこゑ（きり）

（空イ）

（澤）

（台北草部ニ筆ニ出）

さゝのはもそよとみだれて

秋風ぞ（吹元）

すゝしくもあるかな

（原ノマヽ）

柿本朝臣

ゆふされば（ぶイ）かくまでかなしとは

同

ひとりねの人の袂のおきまでも（へ）

（ぬイ）

（ぬイ）

（ぬイ

万十
たまさらを
六帖題清之
世をそむく人をあつめて
同題三つさら
尾(尾張)
なまめかしやみなれ(日次行紀)
新立
かくまのさうのくさ
同
新立
よの中をおもひそめ
同
同
山ふかき松のあらしに
同
大納言典侍

鎌倉
中務のみこ
たまつさ
檢校定教
長生門大夫
信実朝臣
定修法眼
今
大納言典侍

刀
六帖題
新立
仰事をうけたまはりて
同
すてにやなひきそめ(ぬ)

あをきそのひもとき
久安百首
もくさもえやらぬ(色)
建保三年名所百首

ふる人の
信二位家隆
荒木田神主延成
(ぬのすかい)
(完)

長生門大夫
民部卿為家

円
いまは我まろもとろもり
円
やまとのものまろさろ
家集五十首三帖
円
まろまろは人ごさすてふいろ
朝
六帖題さや
まほろばえさろもりまろん
円
為家卿
信実朝臣
信実朝臣
指傷正五位
衣笠内大臣
まほろばえさろもりまろん
正三位知家
円
はしまりなまとれともみせさやのさきにけて神やまこそ
円
かつらまろさすさやろまひつまろあひつまろおも
弓
文治六年五社百首
春夫、后之更衣
うろやまわろもりのそのそのそりまでをこまかし
夏ふそよさまろ六月
前中納言定家
かりくらひろやまもまもせきなる
家集寄弓恋
信頼朝臣
ころすろさつをのゆつろもまろ恋よやまふ
円

[illegible]
久安百首
中[illegible]
[illegible]
いそらいわつさ[illegible]
[illegible]
まもりもる人もをらんとそ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

枕をちのまゆみを防ときそ天保好正家系 天保七年正月孔をてまちて悪き
いたせんきやうきれゆこのてまを

箭

六帖題

民訟ある家に

寛五 思ひきやよさてまたれ
月 人をうこのまをこそ
月 信実朝臣
月 家ゆたそのやうにそ

月 氏三位知家
月 家ゆたそのやうにそ

支考約言

月 しるもちれやまあこそ
月 そよきくこそ
久安百首 月 みもにれへてもそそをきちへ
月 なるやて庶うひくそ
家集 月 きの風のもゆこをのてま
白河院 月 ちよひいくたちぬうちあとかも

月 神祇伯顕仲
月 修理亮行朝

万七
あふこのやくそくのものをやうけてはしりありやしひきを
万二
まつ人にのうちやたなさみちもしひろくまかりやま
○勝(ち)
中条
夜ふかしせこゑもしきまや
源仲正
恵三の中
円
ふくもたえそうあをおもいもっかうえもおきをふの
万十六
らたこ帳(ち)
信実朝臣
たちるまをおそれをのあきまをしひかもしろきの作まを
万十六
すこもきあをなをてこうつりよもっきみてやとしん
殖人王
源仲正
杏
家集
山さとい(に)逸さ(ち)へやこもりをしけらてうくひ
民部卿為家
こゑしひ
あこをけてこれおそうんて
古今
神(か)
ねくもりのかきつはたへはかさなるかいかほる
和泉式部
家集
逸のるもをくまもりをくまの葉杏そそもそれの人うきてうえ
長方
逸人不(も)
ぞもりれわ洋すうをこうそてこれてあひうそりさうもきれ

にてなりすこ

杖

平作門大作
百首
杖とこしえとなれば逆よからぬ
中務つねみ 褒
古帖題 作
杖もめいさめ作逆のこ
兆連
新古今 同
杖竿門大作
杖をひいて逆よ作くよ
信実朝臣家
同二百首
杖なくさくらにもんみ
信実朝臣
建保百首

同
をけえなさくらにもんみ
建保百首

いまはてこのよもやさをてさ
寄老人恵
杖ともたのむ人の心のそこまでつきぬ
永久百首 永久四年
杖ともたのむ人の心のそこまでつきぬ
二条院大弐
同
杖ともいひつべきかなつえ
二条院讃岐
杖ともいひつべきかなつえ
二条院讃岐
杖ともいひつべきかなつえ
二条院讃岐

そのつぎは越後よりさし出すもの

百貫余の

いずれにても不足よりさし出すべし

七百石余よりさし出すべし

おおくなりしものをつとめる

そのつぎは越後よりさし出すもの

鞍

百貫余の

多のえをはてかそふるもの

越後和尚

毎月一貫中

毎日一貫中

越後和尚

毎月一貫中

毎日一貫中

民部之丞家

毎月一貫中

毎日一貫中

新六ノ二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

琴

仲文外記よりおこせける

後頼朝臣

ひきつたへきくものそなき
ふるき世の日本記をも
何をかはおもひおこせる
詩よ歌よりふみ見かわくらひてぞくらしける
しろものとて故実の名をも
なの人ぞ秘記や
月三十一年秋八月辛卯朔
朔て用ふる事の名をたてすてゝ
葉にさへ迷ふとそ有ける
して悩をやる五百余巻
則諸国

題て転をたてゝ初朔旦冬至のたまよ
す月餘燼
もて天まる獻
斛して

山中にて月をみて

如覚法師

おもの移ふまのもとなかもしさもうきけさ秋
家集

天平元年七月七日夜

賀之

おもはいまにあふ事
なくとも秋のうらはを
月

月

月けを(小元)ちとひくてめくとをしてますやうん

六帖題にて　永正内大臣

(新文)夜くをはつまおとのあつ(琴を調)(初て)(ふ)(ま)ふ(ま)ふ(ま)ふ

おもさせ給のいのりとぞ
建保三年四月廿日　修二位家隆
おもさせ給のいのりとぞ
同
吹ぬきをのこす今ぞ
おもかけを雲のうへ人
同
浪ぢにくもりそめきて
権中納言　藤原為家
浪ぢにくもりそめきて
同
吹ぬきをのこす今ぞ
おもかけを雲のうへ人
詞書左兄
権中納言　藤原為家
琴引　琴弾てあそばしける
和泉式部　後頼朝卿
詞書左兄
権中納言　藤原為家
琴引　琴弾てあそばしける
和泉式部　後頼朝卿

きくとみるさもしきれ
同
笛の秋なをみそにあ
文永二年七月廿日内裏歌合
同
まつのとをおとせぬ
毎日一首中
吹まよふみちの
正二位季経
吹まよふみちの
詞書左兄
うやまひて
民部卿為家
うやまひて
法橋顕昭
ひとり秋をいまさら

はの判元向子朝臣陳人のまえ（ママ）（ママ）（ママ）
陳人おそ次の（ママ）（ママ）（ママ）甚都寒高（ママ）（ママ）
吹やもゝへもきをゝ吹やめ（ママ）（ママ）
ゆいくとゝ

同（ママ）

つゝひいまゝ次きあよ

隆信勅使

よ（ママ）ほけのまゝまりけ人今とゝくゝきてよ（ママ）は（ママ）

同（ママ）

正三位行（ママ）

ゝくまゝみそ（ママ）ほけくゝ

中文指大ま家房（ママ）

山哥判名三の（ママ）
といはれくゆ（ママ）

のゝくもやもゝ（ママ）
柿本新侍百首
記ありてほけまそかあ
六帖題
たまへこれみゝのゝまゝ
同
世（の）ゝきまよ
同
ゆゝくまよ
同
みまゝの（ママ）

後九条内大臣

衣笠内大臣

三位知家

民部卿為家

信實朝臣

光俊朝臣

川
牛よ(新古)りまろぶ子ひとり
（おまちだを元）
今ここみきよかへ(ク)
（上）
笛の穂をおきて
（ク）

鼓

玉ぐしのさめたるみづ
百首に
けふよりきまして
（頭ホよりめりて百首ニイ）
門松をたて

寄山祝

浦仲正

家長朝臣

（おまちだを元）

うらなくも今年(ク)
文永九年正月一日中

民部卿為家

時うつのりおきてにしらぬ
時うつのりおきてにしらぬ
時うつのりおきてにしらぬ

（おまちだを元）

題不知

時もりおくりつてこうち
（万十一）

長哥

（万二）
ゆきふりもも(ク)
（歌）
つこのをきいつちのぺ

人丸

（ク）

（ク）

（ク）

鐘

動きを竹そよぐのくれ

後言葉柿政

吹よりかすかにきこゆ

川柳社ら人吟哨

秋ふもまつみもかすかに

百首師匠

馬羽坂清雪

中納言雅恵

注云雷音則鳴故
言知也如有自然
雷而不可為也
是雷之名号也

新続古今社ら納言長忠

山寺判者大僧正行尊

よりわすれくなる

百首寺

殿富門院大輔

同性称式家

権九条関大将

柿本新撰百首

川

あらそふ 争 逆らふ 抗 仇なす 敵対 反抗 反目 相争 闘争 抗争 抗戦 抗敵 抗拒 抗衡 抗抵 抗論 抗議 抗弁 抗言 抗訴 抗告 抗命 抗令 抗違 抗背 抗逆 抗戻 抗乱 抗暴 抗敵 抗戦 抗争 抗闘 抗撃 抗防 抗守 抗禦 抗支 抗持 抗保 抗維 抗護 抗衛 抗援 抗助 抗救 抗済 抗扶 抗賛 抗協 抗力 抗合 抗同 抗和 抗応 抗従 抗順 抗服 抗伏 抗降 抗屈 抗折 抗挫 抗敗 抗北 抗走 抗逃 抗遁 抗避 抗免 抗脱 抗離 抗別 抗絶 抗断 抗切 抗截 抗裁 抗決 抗判 抗定 抗評 抗論 抗説

判を右寺へあひいるるをかなしくて
かくよろづいときこゆるをとこ

題不知　　安政上人

いさゝかもよろづくまなくあらはれて
建保三年名所百首　　僧正尭恵
あるがまゝなるひきたてやせん

同　　

月前松といふ事
あら山ぢをつきなやむる時雨哉　　後徳大寺左大臣
百首　古寺松

ゆくまでのかゝるひきをやしたふらん
家集　雪
雪ふりてむら竹ふかきさとの戸を
あけてもとはぬ冬の山ざと　　後拾遺　源頼実

同

地ふくときてけんかとをみるまでや秋をかぎりと
文永弘長比　　後嵯峨院御製
柿葉集　秋
みるまでも木葉ちりしく山ざとに
又れ行とも七月白露

心静かなる夜
ちよろづにかなしきものゝひきをつゝ
お宝鏡　　
なきや秋のよるのさゝめごと
おなじ院　　
文永二年百首　　
おもひ侘ぬる夜半の袖の露
お民記　雅有
なきあとまでもかゝるひきをや

源頼朝公展障子絵

あさや岡のたこゐる秋をせよ
負玄三乙百題百首

こゝろせん入あひのかねもそ
家集 詞書なし 長河寺の失行者追放の時
作らめやきあ〜ようらふしけり
家集 詞書なし 第中納言定房
言ふまじきものゝふりけすん
卒都婆
六帖題

長谷門大臣

あてをきしたゝ
千首中
作らめやなよひらめくまゝ
永久三年卒金百首
古今 雑上
春〜ふのよはまあつて
百首
あさらんぬきそとつよ春
金
みちのくもそあてまいらせけり時
中納言家持

五八

身代御仕法ニ付御願

長寺

同

一 御領分之内ニ而も人を
もめたなどいたし候ものハ
そのまゝ御捨置ニ
まかりあり候ハヽ
きりなく
御領分之内ニ而も人を
もめたなどいたし候ものハ
そのまゝ御捨置ニ
まかりあり候ハヽ
きりなく

守金悪

こかねもちの
建長三年毎日一首中
民訴

ゆるやかにうけこたえするものハ
五行御下の霊
ニんなまてゐるときハ
家集守金悪
一 ひとのこゝろをみだすもの
二 帖題と
三 ハやくいふもの
四 よろづのことを
もとり入ること
一 毎日上人
指傷云朝
績人もと

麻布御仕入余在能麻苧保存

惠守中

寶

玉

安貞

素俊法師

一位教長

清補朝臣

法宗

源仲正

源重綱

源仲正

源重綱

源仲正

源重綱

えるこれもものもらくあらかりやもろ
家集 雑
よはひのうまをつもとなひしまあるを神のくちよはけろる
長承三年殿捕らる家三の合
ちひさくもつくみそもるいもおすもたきや雪
有房雅歌 雑
六帖題
たまもけまきまつものみそ神やおなてしてあるを冬
民部卿為家
円
ぬるのみそなそかこらまきてみるけろ海なお冬
支俊朝臣
円
ぬのうへのまらむらもろ
衣笠内大臣

百首歌奉
みさこおるあいそるそよふしまものおりとまきまも加
前参議教長
名所百首
みれもろくきめろ金ものものやろ
宝治二百首歌 宇津
信実朝臣
人のまあいそるそのふしまをまもあろ羽なろやつさん
六帖題玉を
和寺の浦まものさすてあるまん
民部卿為家
千五百番歌合
月をやそたものろ
正三位季経
家集
やまかもまきのつきめろ
中原師光朝臣

題名
百三 かくらくせつ物をもとめてにまいりて詠そうそうして遠近
あまのへよりおきて生そうつせあよてにまくまの松ぬさ
君卜神等合
世よこいろ老うもあもてひりのそこをもう人
建長八年百首寄合
後二位行家
春ものあまかすみのをのもとやおりまのさめ
前中納言為家
たつことをもまつ君をもいもよれ
家集中

詞書イ 新拾遺二
人をうらむるあまのそこ
後法性寺入道関白家百首寄
行事を
松のけのきこえなきさにも
題不知
権大納言為兼
ふるさとをこひしき夜半の
同
そこきよみ

寿　同　同
同　同　同
寿　同　同
寿　同　同
寿

玉人治之得寶名曰和氏璧以心

鏡

六帖題加乙

いくそちを乙行はと

冂イ

みりせあるもかな乙時ま

冂イ

みさきなかな乙の重あきて

六帖題

いそちみさきいそちみ

冂イ

冂イ

冂イ

冂イ

あそ所時そあり乙

古歌そ立り社乙

泥ます行ますくるうち人

以ち判者清輔

乙ま乙ま泥ち

日吉社乙百三の合

よそそまめなきし人

以ち判者俊成

詩題 楚王和得玉璞北前山獻之武王玉人

相曰石也則誰名足後文王即位又獻之玉

人相曰石也則足後成王即位和抱璞

璞哭楚山之下三日三夜淚尽繼之以血

源光行

同

おやのなげきつきせざりけり

同

なりまさ三のかず

題不知

ひとりのみかやくらけやま

十五百番三の合

さねもりのさうきにけり

家集

かつやまのみねのさうきにけり

同

なりまさかず

信実朝臣

文保百首

後拾遺

光俊朝臣

建中納言定家

同

なりまさかず

久安百首

ゆきまれなる年ふるのかみやま

同

いまてこそをれなれをもて

後拾遺

清輔朝臣

さみだれはしばしもやまぬ

仁安二年八月

祝詞歌仲

ふる雨を波のうへまでみるかなる

清輔朝臣

二百番

二百練法の

二百番

二百練法の

千林寺井

題不知

詞書イ

みちすがらもみぢをおりてつかはしける　永承五年九月宮の内にて　源重之

立ちよりてをるばかりぞ秋ふかきいろづくやまのもみぢなりけり

返し　宰相君

題不知

万十二

恵せとおもふこころのまがふにはいろづくやまのもみぢなりけり

民部卿為家

題不知

ちりこひてもみぢもなべてかみなづきしぐれのそらをながめつるかな

読人不知

院名所歌合を流布月比ノ抄イ

秋歌

ひとり秋の夜をよめる　源重之

ひとりぬる山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかもねむ

秋歌

こりずまの関白前太政大臣

家集寛平中

みてもなほやどるつきかなかたしきのそでのわかれにかはるとおもへば

後鳥羽院御製

秋歌

ひとへをるなくなくうつすころもでにいくしほかしむ秋のゆふぐれ

中務卿宮

三百首歌中

[illegible]

家集寄鏡裏

[illegible]

同

永少[illegible]年百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

光孝五十七ヶ条ノ合イ

ゆうきまで

源のころもの下ゆ（よのなか）

又月毎三の十夕前（たきまで）

又月毎よ山田のあぜ（ゐ）

前上人

六帖題（ろくでう）（ことまで）

いまもみそとのよむすま（これもし）

住吉（すみよし）まで

ゆきまいのゝ（ゆきのへ）

人丸（つゐなれゐのまろ）

家集（ゐ）（ことまで）

ゆひしほところむすひを（ゆひしほころもをまで）

月（ゐ）

言書寺合（源中納言（定）家卿）

新陽門院越前

正二位知家（ゐ）

人丸

同

文治六子五社百首（ろくねんみづのえねごしゃひゃくしゅ）

かきとつるあさもの（ゐ）

十五百番寺合（ゐ）

同

寛治二年百首（ゐ）

後三條家隆（ゐ）

建保年次未詳四月廿日見存

おまのうたまのもの　花もの

小松侍従　梅花の心を

すゑのうらやまかすみ

六百番歌合　春

春のうらやまかすみ　同

あさくらやまのはさむき

風のうちに　春永

庭かすみ　文治六年女御入内屏風

六百番歌合　春

六帖こいせの

花すすきほにいでゝまねく

建保元年

建保元年内大臣家

後九条内大臣

中務宮の

千首哥　こけ

ふかくさのこけのした

建保元年内大臣家

後京極摂政前太政

すゝやまみの里の

家集冬哥中

よもすがらくもゐのほかの

あまのかるもに　貞永元年八月十日

藻壁門院少将

波まより雨のさそふる

千五百番哥合　恋

月ゆゑにおもひそめてや

奥敷紙作

かちまけて　宝治二年

前大納言忠良

あふことをなにかたのみの

寶治二年百首 秋

せきあへぬ涙のみさにおつる袖
千五百番哥合
萩露をまねきてよめる
千五百番哥合 建仁二年八月
永議雅経
秋風のふくにしたがふ萩の葉の
千五百番哥合 建仁二年八月
後鳥羽院御製
ちりかかるたもとのつゆをはらふ袖
秋風ぞ吹
修成門女
おもひきやよそにみしまの秋萩を
袖のつゆかけて折らむとは
題不知 秋
僧三光院
おのづからたれかはとはむ秋萩の
露のやどりの庭のふるさと
寂蓮法師
秋萩のうつろふ色をながめつつ
露のゆかりの袖をしぼりぬ
題不知 秋
僧慶縁
秋萩のうつろふ時のなさけをも
露のゆかりの袖にかけつる
百首哥奉りし時 秋
従二位家隆
秋萩のうつろふ庭の夕露に
袖のみぬれてかへる山人
六帖題
従二位家隆
秋萩のうつろふ色をながめても
露のゆかりの袖をしぼりぬ
源仲正
秋萩のうつろふ庭の夕露に
袖のみぬれてかへる山人
後京極摂政前太政大臣
秋萩のうつろふ色をながめても
露のゆかりの袖をしぼりぬ
久安百首 秋
清輔朝臣

さうれうすけの朝臣

（妻頭にて百首歌よみ侍りけるに、曙）

春ごとに花の下ゆく我なれや

民部卿為家

（朝）

あけぼのの霞のもとにきく鳥の

（からのまくら）

六番

為家卿

みちもなくこころまどはすまがきかな

（朝）

（月十五首奉行）

（朝）

（夕みつせく）

同

ひとりぬるかたしく袖のさよ衣

人丸

（つかへ）

（金葉）

ゆきまくら草葉の露の

中納言家持

かたしきてひとりぬるよの明ぼのは

鴨

家集

（金葉）

いつこともなきものをおもふ

皇太后宮大夫

（羽）

若草のつまもこもれり

俊頼朝臣

（立）

我も又かくや神よ春霞

（秋）

（よし）

ひまもなくふりしく雪に

（ゆ）

（ふ）

ゆきもせぬ

（よ）

女のひ

けをいふ（ママ）こと（ママ）もをもてあそぶ

逆

たのしみてあそぶ恵

玉ゆらのおと（ママ）のつまごと

六帖題

みちのへ（ママ）をゆくさかな（ママ）逆

長承三年六月家の会 たまのもり

為忠朝臣

夏ふかくなまめかしきころほひとこそ

家集 守逆恵

わりなの夏のうき（ママ）逆みづからきて手きよのもと

修理権大夫

信実朝臣 従二位

みちのへ（ママ）をゆくさかな（ママ）逆

長承三年六月家の会 たまのもり

為忠朝臣

夏ふかくなまめかしきころほひとこそ

家集 守逆恵

わりなの夏のうき（ママ）逆みづからきて手きよのもと

民部卿為家朝臣

ひとよ秋あさてりそふ（ママ）あまのかはかぜ

五百番歌合 さもり

大納言通具卿

さもり 寛元四年十月 正二位

正三位

修理大夫

俊成卿女

こころなき（ママ）

民部卿為家朝臣

ひとよ秋あさてりそふ（ママ）あまのかはかぜ

五百番歌合 さもり

大納言通具卿

さもり 寛元四年十月 正二位

正三位

修理大夫

俊成卿女

こころなき（ママ）

あけもろ（新花囃イ）

みそのおゝみそのの（ロニ）

寛永二年十月信貴社寺合拝宿附

いるもろ　清浦勘兵

判者　俊成

ゆるもつのうれて時雨もる

りくさおりそ時雨もまろく

みゆるをけいる道もきつの浦とのとさをけろ

おまつへとこゆうをけいるもろのりんたいを思

ぬよきたの浦ことようへとこそ

ゆるおろ（ロイ）ますみり私

ろもろまいる道もおへ（ロイ）ともおりゆ

（会にも形式小書形式ニこれたいし今本を採式ニハナイリカバ）

みいる道もろうまそたものゆうへともおりて

めるとこそ作者

あるよもの（ロイ）の道とこそ

やとい（ロイ）ろ時雨ろ

さろまやはのはろうまろをみる道

ろもおはへろまやとろい

籬

題不知

すきたりとゆうれすとこ

同　こまのすき（ロイ）

（男生）

たまれのこすれもとれ（ロイ）

なまれのひまにけてろ

同

（ロイ）

（考　ロイ　ロニ　ロハ　ロホ　ロヘ　ロト　ロチ　ロリ　ロヌ　ロル　ロヲ　ロワ　ロカ　ロヨ　ロタ　ロレ　ロソ　ロツ　ロネ　ロナ　ロラ　ロム　ロウ　ロノ　ロオ　ロク　ロヤ　ロマ　ロケ　ロフ　ロコ　ロエ　ロテ　ロア　ロサ　ロキ　ロユ　ロメ　ロミ　ロシ　ロヒ　ロモ　ロセ　ロス　ロン　ロ濁　ロ半　ロ小　ロ異　ロ仮　ロ朱　ロ墨　ロ補　ロ補朱　ロ補墨　ロ補異　ロ補仮　ロ補朱異　ロ補墨異　ロ補仮異　ロ補朱仮　ロ補墨仮　ロ補朱墨　ロ補朱墨異　ロ補朱墨仮　ロ補朱墨仮異　ロ補朱墨仮異　ロ補朱墨仮異

六帖を　三位入道家へ
参らせ給ふとて　御歌あまた
書き給ふ人々に　わかれ侍る
同　いかにせん　光俊朝臣
年をへて　百首三の中
詠歌あまた　ありけるを
恵文院　おさへて
取りかくし　侍りければ
六帖を　修理亮
後一条入道内府
信實朝臣
世中の　同
すまれぬ　信實朝臣
三位入道
家の　合
侍りける　権中納言
明玉
さきもこうの　乃つまも
六帖題侍りける
をとめこう　つけのはまも
中務
権
権
侍従
後鳥羽院御製

同（イ）

三六

おけるをそうらいまして

三七

同

春よをきそうらえんとやまひ

和泉式部

さまくよ神をそめのさ

六帖題（全）

三八

おくてふやまおけ

建長八年百首

おもとをたおさ

後九条内大臣

信實朝臣

むろの梅

小侍従

建久六年百首

三九

雪をなをめをきそうもくを

前大納言忠良（卿）

四〇

山おろしに

雪をそうらいまして

四一

かすみ

統宣胡臣

四二

もるやかすみ

題不知

四三

春のまま

大僧正女

四四

をとめこうたまそうはめうはくまい

四五

同（イ）

四六

春のまま

石川小郎

鬢方鬢

六帖題

すまのくたのそらかとそみる

民部卿為家

同

年ふるままもらへてすむ

正三位知家

不通恋のこゝろを

後頼朝臣

一字百首

わけよりかすてつゝむ

百首三首中

いかてもそなはし

恋忘れぬ家

お中納言定家

家集

中納言家持

六帖題

いまもこゝろにさそふ秋の田のほのかなりつる

衣笠内大臣

答笥

六帖題

いつるもあまをとめやそ

光俊朝臣

同

をのたかんまもあらん

源師光

四位二百首

きりのあかつゆそこいもをくてたゝむ

火取　ひうり（ひうち）

文　たきものこのもそうりなど

同

同　ひのもとよりもやはりたきものは我国にてもおもにたくさくに

六帖題　民詠之家

文　たきものよりくゆりいでたるけぶりのひとすじにのみ思ひそめてもさもせばしひとやをこがんなどもよめり

同　新古

同　もえつきてのちもやはらぬるものはおきなどをもよめるなるべし

文俊朝臣

讃人　ものをのみおもひくだくるたきものはくゆりてのちもやはらぬるものはおきなどをもよめるなるべし

同

同

文俊朝臣

挿櫛　挿

家集　我ためやかたのひさしもかすむらん

六帖題　衣笠内大臣

我ためやかたのひさしもかすむらん

六帖題　藤右櫻

衣笠内大臣

正三位家隆

同

同

文俊朝臣

枝扉

六帖題　あさ

衣笠内大臣

はゝそのもとをもしるの神なさそもけてめりわ
同五 民記する家人
しるす我すてきまゝ〳〵ゆきまゝ時を處き
同 同 光俊朝臣
源うあさそひまゝをけまゝなまうしをけまきろ舟人
洞院摂政家百首 秋 旅
こゝろもてみちのくにまかりける人に
為家家百首
なかりなさよくまゝをみ人かりまきまゝ月
文治二年五社百首 寄月 身太后宮大夫俊成
おもさせ宮まゝ神よさゝむけせゝあさのこゝろひとうひ

すへうそおさうむけてゝ
ねさ
人丸
詠人しらす
わうそれもひのそこにまうあさをゆまゝ
そやさしていのまうあさをゆまゝ
あもねさねひをなたまうたこのそれとにもつけ
おうそよゆをそあさにきりの衣をゝをきき
従筑紫上京時
ちもゝろ神の原ろにわかをしぬさたらむ
土師宿禰水道
ゝまゝうくよ

表打

棟

百首哥

後二位家隆

後三位行能

宇陸述懐

大納言雅忠

いはけなきおのいまさらにめのまへの
もの哀
わさらぬものゆゑもめのまへにちきうたの
題をとり
わさもものをものゆゑもめのまへに
よみあらす

同

ひさうなるいかくまもあきらかにものの
同

ものたもひたもあきてもあらす

同

中納言家教

もろともにあはれとをみるまても
もえ
もろまてまとみちのくの人今そ

同

きのくもものやまをせひてすくものもあを
しめ

中納言家教

あひきのそらおそろしきものゆゑに
同

大休後の月

おのいまさらにめのまへにちきうたの
題をとり

但馬皇女

をくまてもひつあまのうらに
みちのくまもあゆくせ

寛永十六年

110X
495
21